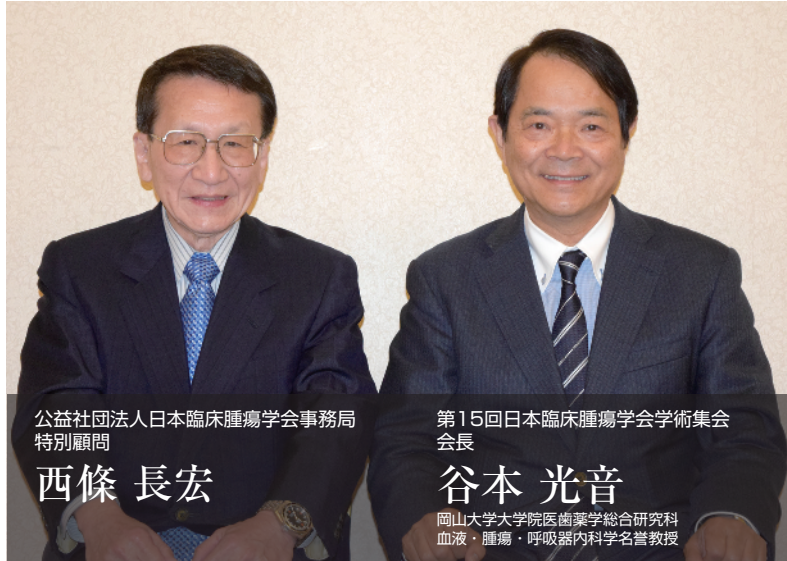


第15回日本臨床腫瘍学会学術集会開催に向けて



Nagahiro Saijo



公益社団法人日本臨床腫瘍学会事務局
特別顧問

西條 長宏

第15回日本臨床腫瘍学会学術集会
会長

谷本 光音

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
血液・腫瘍・呼吸器内科学名誉教授

Mitsune Tanimoto

西條 本日は、第15回日本臨床腫瘍学会(JSMO)学術集会の会長をされます谷本光音先生に、今回の学術集会の特徴を中心にお話を伺いたと思います。

がん対策基本法から10年、がん医療の均てん化を検証する

西條 今回の学術集会のテーマは「最適のがん医療—いつでも、何処でも、誰にでも—」ですが、その意味するところを教えてくださいませんか。

谷本 2006年のがん対策基本法が制定され、10年が経ちました。この法律は、がん難民をできるだけなくしたいという患者さん側からの強い要望で、行政が動いて法律化したという経緯があります。そのなかで根幹をなした要望が、がん医療の均てん化です。

均てん化といってもさまざまな意味があり、たとえばある診療分野の医師が少ないので治療医を増やすといった、診療分野の均てん化があります。また、どの地域に住んでも安心してがん医療を受けられるという、地域的な均てん化もあります。あるいは、教育をする場所をできるだけ全国に整備して、がん教育を進めるという均てん化もあります。

そういった診療や教育の分野における均てん化が本当になされてきたのかどうかを検証したいということから、今回は「最適のがん医療—いつでも、何処でも、誰にでも—」

をテーマにさせていただきました。

西條 本学術集会のポスターでまず目に入るのはハートの形ですが、これは何を強調したのでしょうか。

谷本 1つには、多くの人が集まって心温まる医療をやりたいという医療者側のハートです。また、病気だけを治すのではなく心のケアもしてほしいという患者さん側からのハートという意味ももっています。できるだけ優しい学会にしたいということをもっと強く思っていましたので、それを1つの形にしてみました。

西條 グリーンのロゴマークの意味もご説明いただけますか。

谷本 これは、マスカットを具象化しています。岡山は桃とマスカットが名産物なのですが、学術集会の時期はマスカットのおいしい季節です。なおかつ暑い時期ですので、できるだけ涼しげなイメージにしたいと思い、本学術集会のメインカラーをグリーンにし、すべてマスカットカラーで統一しています。

西條 今回の学術集会では、神戸の会場と岡山大学鹿田キャンパス内のJunko Fukutake Hallを活用されるということですが、その目的と意義について教えてください。

谷本 主な目的は患者さんが参加しやすい学会にしたいということからです。ペイシェント・アドボケイト・プログラム(PAP)も例年どおりメイン会場で行いますが、岡山の患者さんにわざわざ神戸まで足を運んで参加していただく